

千葉公園「大イチョウの由来」

千葉公園ボタン園の奥、機関車前広場に 4 本の大イチョウがあります。幹の太さ 257～333 センチ、樹高 20.0～26.1 メートルという大木。このうち 2 本は 300 センチを超える巨木（※）です。公園内にはこのほかボートハウス南側にもイチョウの大木がありますが、幹周り 243 センチにすぎません。※ 1988 年環境庁が定めた巨樹・巨木の基準では、「地上約 130 センチの位置での幹周りが 300 センチ以上の木」とあります。

このイチョウは、猿山など小動物コーナーを造った頃（1956）に植えたものと考えられ、植栽してから約 55 年経っています。1982 年（昭和 57）の樹木調査では、幹の太さは 137～214 センチ、樹高は 14.0～15.0 メートルでした。

それから 2011 年までの 29 年間に、幹周りは 1.6～1.9 倍、樹高は 1.4～1.6 倍に肥大生長したのです。なお、1 年間では、幹周り 4.3 センチ、樹高 28.3 センチの生長量となります。

幹周 cm	No.118	No.396	No.397	No.400	平均
1982	142	137	174	214	167
2011	272	257	306	333	292
肥大率	1.92	1.88	1.76	1.56	1.75

※樹木No.は、樹木調査時の通し番号、幹周りはメジャーによる実測

樹高 m	No.118	No.396	No.397	No.400	平均
1982	15.0	14.0	14.0	16.0	14.8
2011	24.4	21.4	20.0	26.1	23.0
肥大率	1.63	1.53	1.43	1.56	1.55

※樹高は、30 センチ定規を使った簡易計測による

